

医師会学術講演会

平成26年4月24日（木）19：20～（本講演は19：30～）

所沢パークホテル

座長 松が丘クリニック 院長 岡村 榮 先生

講師 京都府立医科大学 内分泌・代謝内科学 教授 中村 直登 先生

「糖尿病治療におけるパラダイムシフト」

抄録

インクレチン系薬剤の登場までの糖尿病治療は、インスリン分泌の自動調節機能を利用できなかったため、どうしても血糖値の安定的な降下を達成するのが困難であった。インクレチン系、特に DPP4 阻害薬は経口剤であって利用が容易で、なおかつ効果が優れている。現在の糖尿病治療では DPP4 阻害薬は必須のものとなりつつある。

しかし、近年増加した糖尿病患者は肥満を伴った症例も多く、血糖コントロールだけでなく体重のコントロールも重要になってきている。ここで GLP-1 作動薬の登場となるが、随伴する悪心、嘔吐の問題があり、あまり使用されていない。GLP-1 の血中濃度を考慮することによって、可能な限りこの問題を回避して、もう少し積極的に GLP-1 作動薬を使用する必要があると思われる。

また、インスリン作用を介さない新たな作用機序をもつ SGLT2 阻害薬が今春よりわが国の糖尿病治療に加わることになる。SGLT2 阻害薬の登場により糖尿病治療の選択の幅を広げる期待は大きい。その期待と注意点について触れたいと思う。